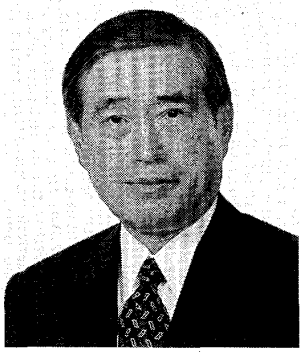
新年の挨拶

OR学会へ期待すること



日本オペレーションズ・リサーチ学会会長
JFEホールディングス㈱　相談役
數土　文夫

OR学会会員の皆様，新年明けましておめでとうございます．年頭にあたり，一言ご挨拶申し上げます．

日本経済は，リーマン・ショックを契機とした金融危機から完全に回復できない状況の下，さらに最近の急速な円高により大変厳しい状況に置かれています．また，地球温暖化問題や少子高齢化問題など，日本社会は多くの難しい課題を抱えています．このような環境において，「問題解決の科学」であるORが今後果たすべき役割について考え，私の期待するところを述べてみたいと思います．

OR学会は，この数年一般会員，賛助会員数が減り続け，一般会員はH21年度末にはついに2,000人を割り込んでしまいました．賛助会員もH17年度の64社からH21年度末には40社まで減少しました．今年度は一般会員，賛助会員とも回復傾向にありますが，OR学会の活性化のためには，これからさらに会員を増やす努力が必要です．特に賛助会員と企業所属の一般会員を増やすためには，企業にとって魅力のある学会になる必要があります．ここであらためてOR学会の置かれている状況について，会員の皆様にも考えていただきたいと思います．

日本のOR学会の理論面での研究水準は世界的に見ても大変高いと自負しています．しかしながら，OR学会は本当に世の中から正しく評価されているでしょうか？　理論的に優れた研究成果であっても，社会，経済の発展に貢献できなければその価値は大きいとはいえません．これまでORが目指し，守ってきた伝統は，理論的研究と実践のバランスだったと思います．今一度ORの原点である実学に立ち戻り，我々の果たすべき役割を検討する必要があるのではないでしょうか．

昨年9月の秋季研究発表会に出席して，金融，輸送・交通，資源・環境などのセッションで若い研究者の研究発表を聞かせていただきました．現在の日本が抱える課題解決のための時流に合ったテーマが多く，大変興味深いものでした．しかしながら，モデル作成で終ってしまっている事例が多かった点は大変残念でした．

モデルを作成して終わりではなく，そのモデルが有効なのか検証することが重要です．実際にそのモデルを現場に適用してその有効性を検証して，さらなるモデルのレベルアップにつなげるというサイクルが必要ではないかと考えます．実際の社会の問題からは，モデルで表現しきれない，いわゆる泥臭い部分を切り離すことができません．ぜひ，大学と企業が今まで以上に連携して，社会，経済に貢献するOR学会を目指してほしいと思います．航空機のネットワーク構築の研究発表を聞きましたが，日本の空港のハブ化による国際競争力強化にもつながるテーマです．アメリカでは航空会社が実際にOR手法を積極的に活用していると聞いています．ぜひ，日本でも航空会社と議論してほしいと思います．

OR学会では，主として企業人の会員の方々を対象とする「ORサロン」を開催しています．毎回，産業界や大学の著名な講師に喫緊の課題について講演していただき，出席者で意見交換を行っ

ています．これは産学でシーズ・ニーズをぶつけ合う大変よい機会です．また，ORセミナーや企業事例交流会など，産学連携の場が数多く提供されています．ぜひ，これらの取り組みを今まで以上に活性化させて，大学，企業でWin-Winの関係を築いていきたいと思います．

現在，新成長戦略の議論の中で，法人税や消費税の問題が取り上げられています．大変難しい問題ですが，OR手法を用いて，日本企業の国際競争力を上げるためには，日本の税制はどうあるべきかという課題に取り組んでみてはどうでしょうか？　最適化のための問題解決手法であるORであれば，必ずや有効な問題提起ができるはずです．これからのOR学会は，社会・経済が抱えている大きな問題（環境問題，為替問題など）に対して，学会全体で取り組んでアピールするような活動が必要だと思います．一見唐突なテーマと思われるかもしれませんが，国家に貢献する大きなテーマをORの観点から議論することで，OR学会は社会から注目を浴び，かつ社会に貢献することになると思います．今年度は，これらの問題に取り組むために学会内にプロジェクトチームを作ることを提案したいと考えています．

昨年の10月15日～17日の3日間，中国OR学会30周年記念式典に招待され出席してきました．Yuan Yaxiang会長，Zhang Xiangsun前会長をはじめ，中国OR学会の皆様の温かいおもてなしを受け大変親しく交流することができました．これもひとえに会員皆様のこれまでの交流の成果だと思います．これからも多方面の方々との交流を密にして，相互に切磋琢磨していただきたいと思います．

記念式典には400人を超えるメンバーが参加して盛大に開催され，中国OR学会の活気を肌で感じました．中国OR学会は，工業や農業への展開に重きを置いたいわゆる実学を重視してきましたこれは，中国OR学会の初代会長となられた中国科学院数学研究所所長のHua Luogeng教授が，農民に最適化の方法をごく易しく指導されたことに端を発していると聞いています．また最近，四川省の大地震や大洪水，土石流等を経験した結果「Emergency Logistics Management」や「Disaster Management」にも力を入れていると聞いています．我々日本OR学会も，実戦的な課題にスピード感を持って対処し，実践の場でその実力を発揮していきたいと思います．

今年は，OR学会として新しい法人化制度への対応を決定し，手続きを進めていく必要があります．現在，庶務理事である首都大学東京の渡辺先生を中心に検討していただいています．理事会等で十分協議して今後の学会の活動方針を明確にしたうえで，会員皆様の利益につながるよう対応していく所存です．

日本OR学会に対する会員各位のますますのご支援・ご協力をお願いするとともに，皆様にとって今年が実り多い年になりますことを祈念して年頭のご挨拶にかえさせていただきます．